

特集

# 頼れる身近なお医者さん

## 地域の医療でつなぐ、支える――

体調が悪いとき、お医者さんにかかるべきか迷ったとき、自分の健康で気になるところがあるときなど、気軽に相談できるお医者さんが身近にいてくれれば心強いものです。今回は、住民に寄り添う医師や神栖市の医療体制について紹介します。

### 何でも話せる『よろず相談所』

子どもの体調不良、お年寄りの持病など、お医者さんを頼りたい場面はいろいろあります。神栖市は県内でも深刻な医師不足の問題を抱えているため、頼れる身近なお医者さんを増やそうと、医療体制の整備に取り組んできました。その一つが医師Uターン支援制度です。制度を活用して2020年に開院したすずきクリニックの鈴木洋輝先生に、かかりつけ医の役割や上手な医療機関のかけ方について伺いました。

適切な病院をご紹介します。診療所と病院が連携することで、病院の医師が重症患者さんや入院患者さんの診療に集中することが出来ます。こうした協力体制が、今後ますます重要になっていくでしょう」

「かかりつけ医の大切な役割は、住民にとって一番身近な相談窓口になること。日頃から相談をしていけば、ちょっとした体調の変化にも気づきやすく、的確なアドバイスをもらうことができます。」

「かかりつけ医に病院を紹介しているのです。かかりつけ医に病院を紹介してもらうメリットはたくさんあります。一番は、医師の専門知識・経験・人脈をフルに活用した紹介が受けられることです。鈴木先生が日頃どのように対応しているのか聞いてみました。」



「病院によって特徴はさまざまです。私は旭中央病院に勤務していましたので、病院の強みや先生方

をよく知った上で患者さんをご紹介することが出来ます。医療連携の契約も結んでいるので、診察室のパソコンから直接、旭中央病院でのCT検査やMRI検査の予約が取れるんですよ。他にも、神栖済生会病院の心臓リハビリテーション、小山記念病院の頭痛外来など、各病院が得意とする診療科や特徴ある診療科を患者さんに合わせてご紹介しています」

「神栖市のために何が出来るか考える中で医師Uターン支援制度を知り、背中を押していただいた開院を決断することができました。私の場合に限らず、医療過疎地で医師を確保しようとするとき、非常に手厚く有効な施策だと思います」

の症状に応じて、市内のより専門的なクリニックを紹介することも行なっています。神栖市の医療体制と診療所同士の連携が充実しつつあるようです。

もう一つの大きなメリットは、かかりつけ医の紹介状があることでに受けた同じ検査や治療を省略できる場合があること。また、もし紹介状を持たずに大きな病院を受診すると診療費とは別に『選定療養費』が発生することがあります。こうした負担を避けるためにも、かかりつけ医の紹介で受診するのがおすすめなのです。

「市から一斗缶の消毒用アルコールやマスクなどを提供していただき、本当に助かりました。当院のスタッフも最前線で戦ってくれていたのも、とても感謝しています。感染が猛威を振るっていた時期は時間の許す限り夜遅くまで診療し、新型コロナウイルススワクチンの集団接種にも協力しました。少しは地域のお役に立てたかなと思っています」

### 支援のもとでの開院とコロナ禍

鈴木先生は旭中央病院に勤務していたころから、神栖市の医師不足を心配していたといいます。開院のきっかけは何だったのでしょうか？



「すずきクリニックは子どもからお年寄りまで診ていますが、土合地区は子育て世代が多く住んでいるため小児科診療のニーズが高いそうです。また、患者さん

### 地域に寄り添い続ける

神栖市にUターンして開院し、地域に寄り添って診療するやりがいを見つけた。「病院に勤務していた頃は循環器内科に特化していましたが、現在は幅広い患者さんを診て新しい知識を吸収しているのです。毎日充実感があります。その中で、かかりつけ医として病院への橋渡しを担い、地域医療の理想的な循環を支えていくのが目標です」

皆さんもこの機会に、近くにどんな診療所があるか調べてみませんか。通院しやすい、医師との相性がい、さまざまな症状を診てもらえるなど、頼れる身近なお医者さんが見つければ、日々の安心感が増すでしょう。



すずきクリニック 鈴木先生(神栖市出身)